キャリア指導の現場から ③

派遣労働者等の雇い止め問題

東京都立晴海総合高等学校 相談部教諭・キャリアカウンセラー

千葉吉裕

昨年暮れ、日比谷公園の派遣村が大きく取り上げられ、派遣社員の解雇に注目が集まりました。しかし、このことは決して新しい問題ではありません。東京の山谷・横浜の寿町・大阪の釜ヶ崎の日雇い労働者や全国各地のホームレス、その人たちに人間としての最低限の生活を維持する福祉の問題、

その人たちの不安定で不法な就労の問題など、なござりにされてきた延長線上にあることと確信しています。非正規雇用が大きく取り上げられ、グローバル資本主義を押し進めたことを原因として、構造改革批判が盛んに行われていますが、真の原因は構造改革なのでしょう。私は、焦点がずれているように感じています。その理由の一つは、構造改革以前から、このような問題が起こると予想されていたこと、もう一つは、原因探しのなすりつけ合いのような議論に終始している点です。教育現場にいる立場として、この問題を教育問題として受け止めなければならぬと強く感じています。

九州沖縄サミットが行われた2000年。その4月に、G8の教育担当大臣が東京に集まり、話し合いが行われました。そして、発信された宣言文では、今日起こっている危機的状況を予測し、教育の転換を訴えています。そこに、次のように書かれていました。

「高い技能レベルを身につけ維持で

きる者は社会的にも経済的にも大成功を収めることができるが、そうでない者は安定した職業及び、その職業によって得るべき社会的・文化的生活活動に必要な収入を得る見通しも立たない状態で、かつてない疎外の危険に直面している」

まさに、今、議論している問題ではないでしょうか。そして、この問題の原因は、伝統的な工業社会から知識社会が顕在化したことによる社会全体の変化です。変化に対処できないことで問題が生じているのであって、昔を堅持せず変えてしまったから問題が起ったわけではありません。

この宣言文を読んだ時、私はたいへんな大きな衝撃を受けました。目の前にいる生徒たちに、社会で通用する力をも身につけさせなければならぬ、そして、教育の転換を図らなければ多くの子どもたちが不幸になると強く思いました。今日の非正規雇用の問題と、昔からの日雇い労働者の問題で大きく異なる点は、いわゆる難関大学卒や大学院卒といった高学歴の若者たちが含まれている点です。現在、厳しい境遇に立たされている方々は不真面目なわけでも、努力しなかったわけでもありません。むしろその反対に、従順に、世間で「良い」と言われたことをやってきましたに過ぎません。

有名大学に何人合格したと都道府県

をあげて広報したり、学校の教育評価の指標にしたりする現状が少なからず見受けられる中で、進学させることだけを目指して、社会の形成者を育成するという教育の根幹の目標を見失っているように思っています。

平成21年3月9日、高等学校の改訂された学習指導要領が告示され、総則の中に、初めて「キャリア教育の推進」が明記されました。社会状況を考えれば、どの学校もキャリア教育の充実を図る必要があることは言うまでもありません。しかし、心配されることは、これまでの学習指導要領でも、普通科においての職業に関する教科・科目の履修の機会や就業体験の機会の確保を配慮するように明記されながらも、進学希望者が多いことを理由に、十分に行われてこなかったという経緯があります。今期の改訂も、これまでの二の舞にならないか大いに心配されます。

この心配を一掃するためには、多くの国民の理解が欠かせません。難関校に何人受かったかという指標で学校を評価することに同調する人々がたくさんいる限り、教育は変わりません。社会変化を見据え、望ましいキャリア教育を充実させるために、教育に対する理解を深めていただき、キャリア教育のサポーターに多くの人になっていただければと願っています。